

第3回南知多町総合計画審議会 議事概要

日時 令和6年11月14日(木)

9:30~11:30

場所 南知多町役場 大会議室

出席委員

会長	千頭 聡	日本福祉大学 教授
副会長	秦 由岐穂	男女共同参画人材育成セミナー修了者
	山本 直径	南知多町水産振興会代表
	鈴木 甚八	南知多町観光協会代表
	黒田 吉生	区長連合会代表
	二宮 達好	南知多町まちづくり協議会代表
	澤田 晟	自主防災代表
	山川 律子	民生委員・児童委員代表
	山下 かず代	社会福祉協議会代表
	榊原 英治	金融機関代表
	岩瀬 雅哉	愛知県市町村課
	宮地 舞	知多半島ケーブルネットワーク株式会社
	尾山 皓一	一般公募
	山本 多恵	一般公募
	坂野 真由美	一般公募

欠席委員

	畑中 康弘	あいち知多農協代表
	太田 彰	商工会代表
	宮本 邦彦	南知多プラスチック工業団地協同組合
	吉原 知味	教育委員代表
	鈴木 尚子	小学校 PTA 代表

傍聴席

1人

議事次第

あいさつ

議 題

- (1) 第7次南知多町総合計画(中期)(案)に対する意見への回答について
- (2) 中学生アンケート及び職員アンケートについて
- (3) 基本目標の KPI について
- (4) 重点政策の KPI について
- (5) 各基本施策及び南知多町がとるべき戦略について
- (6) パブリックコメントの実施について

その他

議題概要

議題1 第7次南知多町総合計画(中期)(案)に対する意見への回答について

【事務局の主な説明】

・事前にいただいた意見にて修正のご指摘があった箇所は赤字で修正箇所を記載。その他については、考え方などを記載した。

【委員の主な意見】

特になし

議題2 中学生アンケート及び職員アンケートについて

【事務局からの主な説明】

- ・中学生アンケート(回収率 53.8%)については、将来働くときに町内に住み続けたいか、転出した場合はなぜかを聞いた。
- ・中学生アンケートの結果は、将来町内で働きたい割合はわずか 22%で、そのうち町内に住み続けたい割合は 90%以上であった。つまり、将来も町内に暮らし続けたいと思ってもらうためには、中学生がやりたい仕事をできる町である必要がある。
- ・役場内職員アンケート(回収率 78.5%)については、働く場所が町内にある時、なぜ町内に住むのか、なぜ町外に住むのか、何があれば町内に住むのかを聞いた。
- ・職員アンケートの結果は、転出した理由で最も多かったものは「生活の不便さ」で、なかでも一番

不便だと感じているのは公共交通であった。一方で、町内に暮らし続けている理由のなかで、約59%が「親の存在」であった。

- ・2つのアンケートの共通事項としては、町内に暮らし続けるためには、仕事が合って生活しやすいと定住するということ。

【委員の主な意見】

(澤田 晟 委員)

- ・もっと楽しめる町にしていく必要がある。そのなかで、結果的に仕事に結びつけばよいと思う。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・なぜ働きたくないかと聞くよりも、何があれば南知多町に住み続けるかと聞いた方がよい。
- ・中学生までしか町内の子どもの数字は拾えないので、このアンケートは意義があると感じた。

(鈴木 甚八 委員)

- ・高校などで一度町外へ出ていった中学生を、いかにして地元に戻すかということは、行政も含めて我々に大きな責任がある。

(二宮 達好 委員)

- ・町内にあまり仕事がないのは事実だが、このアンケートでは町外で働いても17%が町内に住みたいと回答している。この割合を増やしていかなければならないと思う。
- ・今働きたい仕事なくても、やってみたいことが出来た場合に、精一杯支援してあげられる制度を作ることが大事。

(宮地 舞 委員)

- ・町内で働きたい中学生の仕事の選択肢の狭さが気になった。子ども達に色々な職業を知ってもらうとともに、田舎にいても都会の仕事が出来るということを知ることが必要だと思う。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・子どもの夢は現在南知多町で出来そうにないものが多いと思うが、南知多町は町外でやりたいことをやった後に戻ってきたいと思える町である。
- ・第一次産業者はその地に住まないで成り立ちにくい仕事だが、町外に住む方もいる。その理由を聞くと、町外へ転出する理由として、生活の不便さ以外の理由が分かるかもしれない。

(山本 多恵 委員)

- ・一度町外へ出ていった子ども達が、戻って来て田舎の良さを再確認して住んでくれればよい。

(坂野 真由美 委員)

- ・第一次産業の方や田舎で都会の仕事をしている方の体験談を聞く機会などを設けて、中学生がもっとワクワク感を持ってもらえるようなことが出来たらよいと思う。

(千頭 聡 会長)

- ・家庭内で南知多町は不便だということと話していたら、子ども達は町外へ出て行ってしまう。
- ・中学校のキャリア教育の中で、もっとたくさん仕事があるということを伝えていただけたらよい。

(山下 かず代 委員)

- ・色々な情報を子ども達に与えることはすごく大事な事なので、早々に実現してもらいたい。

(榊原 英治 委員)

- ・転出した理由で最も多い理由である「生活の不便さ」を改善するため、今後は運転免許証を返納した後のことも踏まえてインフラ面に関しても議論していかなければならない。

議題3 基本目標のKPIについて

【事務局の主な説明】

- ・第2回審議会でご審議いただいた際に基本施策の集計方法と同じく認知度・満足度・貢献度を1～2を回答した人の割合にしてはどうかという多くのご意見があり、計算方法を統一したため改めて第3回審議会でご審議いただきたい。
- ・目標値については第2回審議会でご提案させていただいた前期平均に20ポイントを加えた値である。
- ・結果、地域で育むひとづくりの現状値42、目標値62、地元をにぎわすしごとづくりの現状値36、目標値56、安心できるまちづくりの現状値40、目標値60となる。

【委員の主な意見】

(千頭 聡 会長)

- ・第2回審議会での意見を踏まえると、この現状値と目標値になるがよい。

---基本目標のKPI算出方法変更賛成---

議題4 重点政策のKPIについて

【事務局の主な説明】

- 重点政策の順番を変更した。前期は①子育て支援と教育の充実②産業の活性化と雇用の確保③定住支援という順番であったが、中期はしごとづくりに力を入れるという観点から、①産業の活性化と雇用の確保②子育て支援と教育の充実③定住支援の順に入れ替えたい。
- 重点政策のKPIについてもいくつか変更した。1つ目は「商工会員数」を「課税法人数」、2つ目は「放課後児童クラブの申込に対する充足率」を「放課後児童クラブの利用児童数」、3つ目は「赤ちゃん訪問の実施率」を「高校生の海っ子バス定期券利用率」。③定住支援については、空き家バンク関係のKPIを全て変え、「日本人の社会増減数」と「公有財産の利活用」を追加した。

【委員の主な意見】

(秦 由岐穂 副会長)

- 「希望の保育所に入所している乳幼児の割合」は、実績が100%となっているが、保育所に入所できなかった方も町民の中にはいる。もう少しどのような基準で「希望する」なのか明確にしてほしい。
- 「放課後児童クラブの利用児童数」については、出生数が減少していくなか利用者数を増やす目標は正しいか。また、他の計画では放課後児童クラブの他に新しい授業後の過ごし方を提案しているため、利用者数よりも割合の方がよいと思う。

(事務局)

- 放課後児童クラブの指標について、夏休みの時期などは定員を少し増やすことがあるため、通年でとれる指標がよいと思い「利用児童数」にした。
- 希望の保育所に入所している割合について、この希望というのは第一希望だけでなく、第二希望の保育所に入所した方も入っている。
- 第一希望の園に入れない年齢は0～2歳が多く、3～5歳は定員の余裕があるが、部屋の数などを考慮すると、乳・幼児で第一希望の園に入所した方の割合とするには難しいと考える。

(千頭 聡 会長)

- 毎年の進行管理の時には、この指標だけでなく第一希望に入れなかった子どもが何人いるかというデータも出していただけるとよい。総合計画内には注書きで「希望の」の詳細を記載いただけるとよい。

(山本 多恵 委員)

- 新規農業就業者数の目標値をもっと上げてよいのではないかと。

(事務局)

- 新規漁業・農業就業者数に関する個別計画や構想があるため、その中の目標値を設定して整合

性をとっている。

(山本 直径 委員)

- ・漁業の一番の問題は資源の減少。魅力が少なくなっている中で後継者を増やすことは、漁協の中でも今後の課題である。

(事務局)

- ・重点政策の KPI について、本日出たご意見を踏まえて再度検討させていただきたい。

(澤田 晟 委員)

- ・生活するうえで一番重要なことは交通手段であると思うが、重点政策の KPI の中で交通に関するものが海っ子バスしかない。本当にこの指標だけでよいのか疑問である。

(事務局)

- ・現在はこの指標しかない。

(榊原 英治 委員)

- ・転出入される方の年齢層が分かればもっと色々な分析ができると思う。

(千頭 聡 会長)

- ・毎年住民基本台帳から転出入の年齢層などを出して分析していただき、毎年の進行管理の際に整理していただければと思う。

(事務局)

- ・20 代の若者が多く転出し、60 歳前後の方が多く転入している。この内容を今後の施策で生かすことは当然必要であるため、役場内で情報提供していく。

議題5 各基本施策及び南知多町がとるべき戦略について

【事務局の主な説明】

- ・5ページ、6ページが前期の評価、7ページは前期と中期で変更したことを示している。66 ページからの行財政マネジメントについて、前期は 4-1～4-4 まで4つあったが中期は3つにまとめた。推進項目が減るわけではなく、取り組みやすいように3つにまとめた。
- ・67 ページの南知多町がとるべき戦略については「(7)デジタル化を活用した地域課題の解決と魅力向上」を新たに追加した。

【委員の主な意見】

(秦 由岐穂 委員)

- ・6ページのグラフは「子育て」「教育」などの大まかな項目を入れると分かりやすくなる。また、色がついている箇所に「重要」などそのスペースがどのような意味を表しているかを記載するとなおよい。
- ・策定時は3つの基本目標に順番がないと聞いたが、中期では順番があるのか。並べる順番が変わると前期と比較して分かりにくくなる。

(事務局)

- ・順番にも意味があると考えていたが、いただいたご意見をもとに、重点政策の順番だけを変えるのかどうかは、改めて検討させていただきたい。

(千頭 聡 会長)

- ・行財政マネジメントも含めた4つの基本目標に順番はないと思う。しかし、重点政策には順番があると思う。

(町長)

- ・基本目標は全て同じレベルで大切に、一つも抜けることはない。産業の振興を中心に置くという意味で重点政策は1番上に変えていく。なので、基本目標に優劣はない。

(副町長)

- ・3つの基本目標と行財政マネジメントに優劣はなく、前期と同様にひとづくり、しごとづくり、まちづくりという順番に合わせていく。

(岩瀬 雅哉 委員)

- ・公共交通が不便だという問題は、南知多町特有のものではなく、どの自治体も持つ問題である。自動車社会であるがゆえに、公共交通は利便性として低くなることは仕方がない。
- ・バスの運転手不足という問題や、運行の維持に係るコストが非常にかかるなど様々な問題がある。海上交通も含めて、公共交通を維持していくためには町民の方をはじめ観光客など、より多くの人に利用していただき、運賃収入を得る必要がある。

(鈴木 甚八 委員)

- ・南知多町は第一次産業の町であるため、漁業・農業が栄えないと人口は減ってしまうと思う。そういった中で、今から出来ることを少しずつやって町の魅力を子ども達に伝えていくとともに、魅力ある町だと感じてもらえるようなものを作っていきよと思う。

(黒田 吉生 委員)

- ・行政用語が多いため、もう少し分かりやすい言葉で記載いただきたい。
- ・地域の行事などに中学生を巻き込んでいきたいが、中学生も忙しいことは重々承知している。地域との縁は、今後出て行っても大人になったら戻ってくる要素になる。ぜひ学校も協力していただきたい。

(千頭 聡 会長)

- ・中学生が自分たちでやりたいことに対して大人がお手伝いをするといったことをしてもよいかもしれない。中学生なら自分たちで企画する力はあると思う。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・美浜町で実施したアンケートの中で、どのようなものが美浜町にあればもっと魅力的な町になるか聞いたところ、子ども達が欲しいものは大きい書店やショッピングモールなどだった。南知多町で聞いても同じような回答が返ってくると思う。
- ・南知多町の漁業や農業を営んでいる方々も美浜町にお家を建てられる方がいる。そういった方々にもなぜ町外に住むのか聞くことも大切かと思う。

議題6 パブリックコメントの実施について

【事務局の主な説明】

- ・パブリックコメントの実施期間は、12月1日(日)～令和7年1月6日(月)で提出方法はGoogleフォーム、メール、持参、郵送やFAX。
- ・いただいたご意見に対する町の回答は、ホームページで公表する。

【委員の主な意見】

(尾山 皓一 委員)

- ・計画の中で、最低限見ていただきたい箇所をはっきりさせる必要がある。
- ・いただいた方へのヒアリングはするのか。

(事務局)

- ・パブコメの中でいただいた質問やご意見については、ヒアリングは出来ないと思う。文面の中に直接聞いてほしいなどがあれば対応する。

(尾山 皓一 委員)

- ・コメントするパワーがある人を巻き込んでヒアリングを実施し、生かすことはできないか。記載した方の思いの背景を知ることは大切だと思う。

(事務局)

- ・それはとても大切なことだと思う。検討させていただく。

(千頭 聡 会長)

- ・毎月町長対話室もある。町民の方々が気づいたことを気軽に役場に届けられる仕組みづくりが大切。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・町民意識調査などでの自由記述や意見に対する回答は、回答いただいたという実感が無い。この総合計画の見直しに反映されている実感が無い。意見に対するリアクションを丁寧にしていただきたい。
- ・パブリックコメントの募集はメールでもしていただけるか。町のホームページからパブコメのページまでいくことは大変かと思う。また、パブコメ後の結果も公表しましたという旨もメールサービスで配信いただけるとよい。

(千頭 聡 会長)

- ・広報紙でも公表した旨を記載し、QR コードを付けてすぐにスマートフォンで見えていただけるような工夫も必要。

(事務局)

- ・本日いただいたご意見をもとに修正したものを、メール又は郵送にて審議委員の皆様へ送付する。

以上